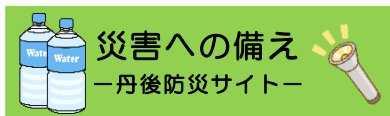


～毎月1日は、防災について考える日～

災害対策NEWS

No.4



災害への備え
—丹後防災サイト—

京都府丹後保健所
HPバナー

編集/発行 (京都府丹後保健所)
災害対策ワーキングチーム

<事務局>

京都府丹後保健所(丹後広域振興局健康福祉部)
〒627-8570 京都府京丹後市峰山町丹波855
TEL.0772-62-4312 FAX.0772-62-4368

京都府総合防災訓練

防災訓練

令和7年度京都府総合防災訓練が、令和7年8月31日(日)、京都府立海洋高等学校、宮津市立栗田小・中学校を主会場として実施されました。

今回の訓練は、約70機関、約450名の参加のもと、水害及び地震の複合災害の発生を想定し、防災関係機関の実践力の向上・連携強化等を目的としています。

訓練内容は、ヘリによる孤立地域の被災者の救助訓練や船舶による海上漂流者の救出訓練など様々な訓練が行われました。

丹後保健所は、保健医療福祉調整地域本部訓練と避難所運営訓練を中心に実施し、大規模災害に備え、有意義な検証の機会となりました。



保健医療福祉調整地域本部訓練

京都府では、大規模災害が発生し、広域振興局に災害対策支部が設置されると、保健所長を地域本部長とした保健医療福祉調整地域本部が保健所に設置されます。

調整地域本部は、保健・医療・福祉等の情報を統括し、市町村と連携して、保健医療福祉活動に係る指揮又は連絡を行い、活動チームの避難所等での現地活動を支援します。

今回、調整地域本部訓練では、①組織体制図の共有、②活動チームの役割と支援内容の共有、③医療機関の現状報告、④活動チームの活動内容の共有など、実践的な訓練を行いました。

「防ぎ得る死と二次健康被害の最小化」を活動理念とし、今後も連携・訓練等を継続して行い、災害対応力の向上を目指します。



<訓練参加機関>

京都府丹後保健所、
京都府立医科大学附属北部医療センター、災害医療コーディネーター、災害薬事コーディネーター、与謝医師会、丹後歯科医師会、丹後薬剤師会、京丹後市立弥栄病院、宮津市、京都府医師会(JMAT)、日本赤十字社京都府支部、京都府看護協会、DWAT、DPAT、JRAT、JDA-DAT、京都府助産師会、DHEAT

避難所運営訓練

避難所運営訓練は、①地域住民によるテント張りや段ボールベッドの組み立て、②外国人住民のための防災訓練、③ペット同行を想定した避難訓練、④車中泊避難者を想定した避難訓練、⑤保健医療福祉活動チームによる訓練など、様々な訓練活動が同時進行する形で実施されました。



保健医療福祉活動チームの訓練では、医師・看護師、保健師、助産師からリハビリテーション専門職、栄養士、介護支援専門員等、さまざまな専門職がチームを組みました。

避難住民の健康面や避難生活上の困りごと等に専門的視点から助言やサポートをされました。

今回の訓練は、各専門職チームの訓練になったと同時に、地域の皆様に、災害時には様々な専門職チームが支援に来ることを知っていただける良い機会となりました。

災害関連事業(令和7年4月～令和7年9月)抜粋

開催日	事業名	内容	参加者数	対象者
R7.8.1	特定給食施設従事者等講習会	JDA-DAT リーダーによる講演 セルフチェックについて報告など	158 名	丹後管内特定給食施設等 関係者
R7.9.6	病気を持つ子どもと家族の交流会	防災士及び薬剤師による講演 全体での意見交流	18 名	丹後・中丹管内小児慢性 患者家族・支援者
R7.9.22	行政栄養士連絡会議	災害時の栄養・食生活支援 活動について	9 名	丹後管内行政栄養士

【特定給食施設等従事者講習会】

今年度の講習会は、「給食施設での災害の備え」をテーマに、能登半島地震でも活動された、JDA-DAT リーダーに講演をお願いしました。

また、衛生管理の講演及び管内給食施設の平常時の災害対策に関するまとめについて、保健所の各担当から報告しました。

開催日：令和7年8月1日（金）

会場：丹後保健所講堂＋Zoom

JDA-DAT リーダーの講演では、能登半島地震での体験にも触れながら、給食施設がすべき対策について学ぶことができました。①停電で使えなくなる前に、冷蔵庫・冷凍庫の食材を活用、②備蓄食品は食べ慣れた食品が良い、③水・食材以外にも手袋・消毒薬などの衛生用品を備蓄、④給食担当者の不在も考慮した体制づくり・施設訓練が必要、など具体的に対策を知ることができました。



今回、管内の給食施設の約9割参加があり、災害対策をより一層考えていただく良い機会になりました。

【災害用トイレ(携帯トイレなど)】

災害時には水道や電気が止まり、通常のトイレが使用困難となる可能性があります。衛生環境の悪化は、感染症のリスクを高めるため、災害用トイレの備えが必要となります。

密閉型の携帯トイレや凝固剤付きの簡易トイレは、臭気や汚染の拡散を防ぎ、衛生的な処理が可能です。避難所や支援現場では、利用者のプライバシーや尊厳にも配慮した設置が求められます。

家庭でも、非常持出袋に**携帯トイレ**を加えておくと、安心につながります。



簡易トイレ・マンホール
トイレの展示(京都府
総合防災訓練より)

【災害用語紹介】

JDA-DAT とは...

日本栄養士会災害支援チームで、緊急栄養補給物資の支援など、状況に応じた栄養・食生活支援活動を通じ、被災地支援を行うことを目的とされています。

主な活動内容は、緊急栄養補給物資の支援(特殊栄養食品ステーション設置)として、物資の手配・分配の指揮を行います。

出典：公益社団法人 日本栄養士会



備えて安心 防災日記

災害薬事コーディネーター(丹後薬剤師会会長)の船戸です。地域で起こる災害に備えるには、日頃から多くの専門職が顔の見える関係をつくり、互いの役割を知っておくことが欠かせません。私たち薬剤師もその一員として活動を続けています。

今年の総合防災訓練では、避難所での健康相談や薬の管理に関する助言を実際に行い、災害時に薬剤師がどのように関わられるのかを地域の中で分かりやすく示す機会となりました。

災害時には、「薬が手元にない」、「何を飲んでいいか思い出せない」といった困りごとが起こりやすくなります。そんなとき、普段から持ち歩く鞆などに、

お薬手帳を入れておくと薬の情報をすぐに確認でき、必要な支援につながりやすくなります。普段から飲んでいる薬を1週間分ほど備えておくことも大切です。

災害の備えは、専門職だけでなく、地域の皆様と一緒に進めていくものです。

薬に関する不安や、「こんな時どうすれば？」という疑問があれば、どうぞ身近な薬剤師にご相談ください。

皆様の安心を守るため、私たちも日頃から防災の知識と連携の力を磨いています。

